試験直前チェックシート

理解できている項目には、図を入れましょう。

Point 番号	理解度チェック					
D · . 1	□企業活動の目的を	理解し、関連する用語	を覚えている。			
Point 1	□経営理念	□経営目標	□CSR	口株主総会	□CEO	
	□CIO	ロディスクロージャ				
D : ()	□経営資源を管理する	る意味や考え方を理解	足している。			
Point 2	□経営管理	□人事管理	□資産管理	□財務管理	□情報管理	
	□PDCA	□OJT	□Off-JT	□CDP	□МВО	
	□e ラーニング	□ダイバーシティ	ロコーチング	ロメンタリング	□タレントマネジメント	
D :	□企業にはどのよう	な組織形態があるかを	:理解している。			
Point 3	□職能別組織	□階層型組織	□マトリックス組織	ロプロジェクト組織	□事業部制	
	ロカンパニ制	口ライン部門	□スタッフ部門			
D : . /	□それぞれの図式の	違いを理解し、状況 に	応じて最適な図式で	表現できる。		
Point 4	口散布図	ロレーダチャート	ロヒストグラム	ロパレート図	□回帰分析	
	□管理図	口特性要因図	□OR	□IE		
D : . [□問題を解決するた	めの手法にはどのよう	なものがあるかを知	り、その考え方を理解	解している。	
Point 5	ロブレーンストーミング	ブ	ロデシジョンテーブル		ロデシジョンツリー	
D: 14	□売上と利益の関係	を理解し、利益率や損	益分岐点を計算でき	る 。		
Point 6	口売上	口費用	□原価	□販売費及び一般管理	里費	
	口利益	口売上総利益	口営業利益	□経常利益	口営業外収益	
	□営業外費用	口損益分岐点	□変動費	□固定費	口資本利益率	
	□ROA	□ROE	□ROI	ロシミュレーション	口採算シミュレーション	
Point 7	□財務諸表の種類と役割の違いを理解し、表を読み取れる。					
Point /	□貸借対照表	□資産	□負債	□純資産	□流動資産	
	□固定資産	□有形固定資産	□無形固定資産	□繰延資産	□流動負債	
	□固定負債	口損益計算書	ロキャッシュフロー計算書	□決算	口流動比率	
Point 8	□生産管理や在庫管理	理に関連する用語を覚	えている。			
Point o	□生産管理	□在庫管理	□JIT	□MRP	□FMS	
	口定量発注方式	口定期発注方式	口与信管理			
Point 9	□知的財産権にはどの	のような種類があるか	、法律によって何が	保護されているかを理	上解している。	
ronu 7	□知的財産権	□肖像権	□著作権	□著作者人格権	口著作財産権	
	□著作権法	□産業財産権	□特許法	□実用新案法	□意匠法	
	□商標法	□不正競争防止法	□ビジネスモデル特許	ロトレードマーク	ロサービスマーク	
Point 10	□ソフトウェアの利用にあたっては、権利者と利用者の間に契約が結ばれることを理解している。					
1 OHR TO	ロソフトウェアライセン	ス	口使用許諾契約			
	ロフリーソフトウェア		ロパブリックドメインソフト	トウェア		
Point 11		生で罰せられる不正ア			いる。	
1 OII II I	□不正アクセス禁止	法	ロサイバーセキュリティ基	本法	ロサイバーセキュリティ	
Point 12	□労働や取引に関すん	る法律にどのようなも	のがあるかを理解して			
10111112	口労働基準法	口労働者派遣法	口下請法	□PL法	□特商法	
Point 13	□派遣契約と請負契約	約の特徴と違いを理解	足している。			
TOHILIS	口派遣契約	口請負契約	口雇用契約	口準委任契約	口守秘義務契約	
	ロフレックスタイム制	口裁量労働制				

Point 番号			理解度チェック		
Point 14	□個人情報保護法で作る。	呆護の対象となる個人	情報が何か、どのよ	うな行為が規定されて	いるかを理解してい
	□個人情報保護法		ロプロバイダ責任制限	法	
	口公益通報者保護		□情報公開法 グロステュエロ グロスス		
Point 15	ロコンプライアンス	全化を目的とした取り	「組みを埋解している」 「ロコーポレートガバナン」		
	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□		ロネチケット	^	
- 1/		を把握し、代表的な標	標準化団体や国際規格	 を覚えている。	
Point 16	□JAN ⊐ード	□QR⊐−ド	□JIS	ロデファクトスタンダード	□ISO
	□IEC	□IEEE	□W3C	□ISO 9000	□ISO 14000
	☐ISO/IEC 27000				
Point 17		る用語を覚えている。			
1024		ロコアコンピタンス		ロプッシュ戦略	ロニッチ戦略
		ロコーポレートブランド こ関連する用語を覚え			
Point 18		ロアウトソーシング	_ C V . S _o □ M&A	□持株会社	ロファブレス
	ロフランチャイズチェーン		□тов	□MBO	□垂直統合
	□ОЕМ	□規模の経済	□経験曲線		
Point 19	□マーケティングにん	まどのような活動があ	っるか、情報をどのよ	うに活用するかを理解	解している。
Point 19		□顧客満足度調査		□製品計画	口仕入計画
	-	□CS	ロオピニオンリーダ		
	□4P	□4C		ロダイレクトマーケティング	
Point 20		つにめの八衣的な分析		のがあるかを理解し、 □3C 分析	分析結果を試める。 □RFM 分析
		ロバスケット分析			
- 01	□目標設定や評価に	関連する用語を覚えて			
Point 21	□CSF	□KGI	□KPI	□BSC	ロバリューエンジニアリング
Point 22	□経営戦略を効率的/ している。	こ実現するためのしく	みや考え方にどのよ	うなものがあるかを知	ロり、その意味を理解
	□CRM	□SCM	ロバリューチェーンマネシ	ブメント	ロナレッジマネジメント
	□тос	□TQM	□TQC	ロシックスシグマ	ロロジスティクス
Point 23				推進するかを知ってレ	いる。
	□ 技術開発戦略 □プロセスイノベーショ	ロデルファイ法		□MOT □プロダクトイノベーショ	` ,
	ロコンカレントエンジニ				
0.4			ノフトウェアパッケー	ージにどのようなもの	があるかを理解して
Point 24	いる。				
	□流通情報システム	□金融情報システム	□POS システム	□GPS 応用システム	ロETC システム
	ロトレーサビリティシス		□SFA	□GIS	□ERP パッケージ
	口業務別ソフトウェア		口業種別ソフトウェアパ		□IC カード
	□RFID □住民其本分帳さ、	ロ電子マネー 小ワークシステム		□CAM = /	□CIM □電子入札システム
	ロマイナンバー		山电」中語・畑山ソ人	74	山电・八化ノ人ノム
0.5		と留意点を理解し、取		わかっている。	
Point 25	口電子商取引	□BtoB	□BtoC	□CtoC	□BtoE
	□OtoO	ロロングテール	ロエスクローサービス	□EDI	

Point 番号	理解度チェック				
0/	□インターネット広告	告の種類を理解し、 関	連する用語を覚えて	いる。	
Point 26	□インターネット広告	ロバナー広告	ロオプトインメール	□リスティング広 告	ロアフィリエイト
	ロレコメンデーション	□SEO			
D 1 . 07	□組込みシステムが何	可かを理解し、それそ	れの具体的な例をわ	かっている。	
Point 27	□組込みシステム	□民生機器	□産業機器	□ATM	ロファームウェア
	□スマートグリッド	ロセンシング技術	□IoT		
D 1 . 20	□情報システム戦略の	の意義や目標の考え方	で理解している。 で		
Point 28	□情報システム戦略	口業務プロセス	ロモデリング	□EA	□Π ガバナンス
	ロビジネスプロセスモ	デル			
D : . 20	□業務改善、問題解決	央を図るための代表的	なモデリング手法を	理解し、図から業務内	7容を読み取れる。
Point 29	□E-R 図	□DFD	口ユースケース図	□UML	
Point 30	□IT ツールのさまざ	まな活用方法を理解し	、、それぞれの特徴を	わかっている。	
Point 30	□メール	口電子掲示板	ロテレビ会議	ロチャット	ロブログ
	□SNS	ロディジタルディバイド	□BYOD	ロトラックバック	
Point 31	□ソリューションの	意味を理解し、シスラ	テム化におけるソリコ	ーションにどのよう	な形態があるかをわ
Point 31	かっている。				
	ロソリューション	□SOA	□ASP サービス	ロクラウドコンピューティン	ング
	□SaaS	□IaaS	□PaaS	□DaaS	□ホスティングサービス
	ロハウジングサービス	ロオンプレミス	ロオンラインストレージ	□SI	□BPR
	□BPM	ロワークフローシステム			
Point 32	□データウェアハウス			-	
1 01111 02			□BI ツール		
	- ロンマニナルの到面)	- DD 1 - TV = L T ッナ	・ 		
Point 33			内容を理解している。		
Point 33	ロスケジュール	□体制	□リスク分析	□費用対効果	
Point 33	□スケジュール □要件定義では何を分	口体制 分析して、何を定義す	ロリスク分析 るかを理解している。	□費用対効果 また、ソフトウェア	
	ロスケジュール □要件定義では何を分 に考慮する品質特性	□体制 分析して、何を定義す 生にどのようなものか	ロリスク分析 つるかを理解している。 ぶあるかを理解してい	□費用対効果 また、ソフトウェア る。	の品質を高めるため
	□スケジュール□要件定義では何を分に考慮する品質特別□要件定義	□体制分析して、何を定義す生にどのようなものか□業務要件定義	□リスク分析 「るかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義	の品質を高めるため口品質特性
	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特別 □要件定義 □要件定義 □機能性	□体制 分析して、何を定義す 生にどのようなものか	□リスク分析 「るかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義	□費用対効果 また、ソフトウェア る。	の品質を高めるため
	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性	□体制分析して、何を定義す生にどのようなものか□業務要件定義□信頼性	□リスク分析 「るかを理解している。 「あるかを理解してい □機能要件定義 □使用性	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性
	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特別 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調道	□体制分析して、何を定義す生にどのようなものか□業務要件定義□信頼性	□リスク分析 「るかを理解している。 「あるかを理解してい □機能要件定義 □使用性	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性
Point 34	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 ている。	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 ・	□リスク分析 つるかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義 □使用性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□費用対効果また、ソフトウェアる。□非機能要件定義□効率性レダ企業を決める)基	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性
Point 34	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 ている。 □情報提供依頼書	□体制分析して、何を定義す生にどのようなものか□業務要件定義□信頼性童する(システム化を□提案依頼書	ロリスク分析 るかを理解している。 ぶあるかを理解してい 口機能要件定義 口使用性 発注するシステムべ	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性
Point 34	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調賞 ている。 □情報提供依頼書	□体制 分析して、何を定義すせにどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか	□リスク分析 こるかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義 □使用性 発注するシステムべ □提案書 □を理解している。	□費用対効果 また、ソフトウェアる。 □非機能要件定義 □効率性 □対企業を決める)基 □見積書	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性 本的な流れを理解し
Point 34 Point 35	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 ている。 □情報提供依頼書 □どのような流れでき □要件定義	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計	ロリスク分析	□費用対効果また、ソフトウェアる。□非機能要件定義□効率性レダ企業を決める)基□見積書□テスト	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性 本的な流れを理解し 口導入
Point 34 Point 35	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □なたる。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ	□体制 分析して、何を定義すせにどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用	□リスク分析 こるかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義 □使用性 発注するシステムベ □提案書 □を理解している。 □プログラミング □保守	□費用対効果 また、ソフトウェアる。 □非機能要件定義 □効率性 □対企業を決める)基 □見積書	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35 Point 36	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 ている。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ □コーディング	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか□業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用 □ソースコード	ロリスク分析 るかを理解している。 ぶあるかを理解してい 口機能要件定義 口使用性 発注するシステムベ 口提案書 を理解している。 ロプログラミング 口保守 ロコードレビュー	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性 ンダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □なアム開発を調賞 ている。 □情報提供依頼書 □どのような流れでき □要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 ・ する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用 □ソースコード ム設計の流れを確認し	□リスク分析 このかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義 □使用性 発注するシステムベ □提案書 □を理解している。 □プログラミング □保守 □コードレビュー 、、それぞれの役割を	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性 ンダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35 Point 36	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 でいる。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム □システム要件定義	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか□業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用 □ソースコード ム設計の流れを確認し	ロリスク分析 るかを理解している。 あるかを理解している はあるかを理解している には、	ロ費用対効果 また、ソフトウェアる。 ロ非機能要件定義 ロ効率性 ンダ企業を決める)基 ロ見積書 ロテスト ロソフトウェアライフサイク	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35 Point 36	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □なアム開発を調賞 ている。 □情報提供依頼書 □どのような流れでき □要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用 □ソースコード ム設計の流れを確認し 義	□リスク分析 このかを理解している。 ぶあるかを理解してい □機能要件定義 □使用性 発注するシステムベ □提案書 □を理解している。 □プログラミング □保守 □コードレビュー 、、それぞれの役割を	ロ費用対効果 また、ソフトウェアる。 ロ非機能要件定義 ロ効率性 ンダ企業を決める)基 ロ見積書 ロテスト ロソフトウェアライフサイク	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35 Point 36 Point 37	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 でいる。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム □ソフトウェア詳細設	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 幸する(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用 □ソースコード ム設計の流れを確認し 義	ロリスク分析 るかを理解している。 あるかを理解している の機能要件定義 口使用性 発注するシステムベ 口提案書 を理解している。 ロプログラミング 口保守 ロコードレビュー 、 それぞれの役割を ロシステム方式設計 ロソフトウェア方式設計 ロ共同レビュー	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性 ンダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク 理解している。	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35 Point 36	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調証 ている。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム □システム要件定義 □ソフトウェア要件定	□体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか □業務要件定義 □信頼性 をする(システム化を □提案依頼書 ンステムを開発するか □システム設計 □運用 □ソースコード ム設計の流れを確認し 義 計	ロリスク分析 るかを理解している。 あるかを理解してい 口機能要件定義 口使用性 発注するシステムベ 口提案書 を理解している。 ロプログラミング 口保守 ロコードレビュー 、 それぞれの役割を: ロシステム方式設計 ロソフトウェア方式設計 ロ共同レビュー 類と役割を理解して	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性 ンダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク 理解している。	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入
Point 34 Point 35 Point 36 Point 37	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 でいる。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム □ソフトウェア詳細設 □ソフトウェア詳細設 □テストのサイクルを □単体テスト	口体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか口業務要件定義口信頼性をする(システム化を立まする)のシステム化を立まるがロシステム設計口運用ロソースコードム設計の流れを確認し、テストの種は合テスト	ロリスク分析 るかを理解している。 あるかを理解している。 あるかを理解している 一機能要件定義 口使用性 発注するシステムベー に対している。 ロプログラミング ロ保守 ロコードレビュー 、 それぞれの役割を ロシステム方式設計 ロソフトウェア方式設計 ロ共同レビュー 類と役割を理解して ロトップダウンテスト	□費用対効果 また、ソフトウェアる。 □非機能要件定義 □効率性 ✓ダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク 理解している。	の品質を高めるため □品質特性 □保守性 本的な流れを理解し □導入 フル
Point 34 Point 35 Point 36 Point 37	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 でいる。 □情報提供依頼書 □どのような流れでジロ要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム □ソフトウェア詳細設 □ソフトウェア詳細設 □テストのサイクルを □単体テスト	口体制 分析して、何を定義す生にどのようなものか口業務要件定義 口信頼性 をする(システム化を 口提案依頼書 ンステム設計 ロ運用 ロソースコード ム設計の流れを確認し 義計 を確認し、テストの種 に対象を関係するか	ロリスク分析 るかを理解している。 あるかを理解している。 あるかを理解している。 一機能要件定義 ロ使用性 発注するシステムベ では案書 を理解している。 ロプログラミング ロ保守 ロコードレビュー 、それぞれの役割を: ロシステム方式設計 ロソフトウェア方式設計 ロ共同レビュー 類と役割を理解して ロトップダウンテスト ロ負荷テスト	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性 ンダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク 理解している。 □ボトムアップテスト	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性 本的な流れを理解し ロ導入 フル ロシステムテスト ロペネトレーションテスト
Point 34 Point 35 Point 36 Point 37	□スケジュール □要件定義では何を分に考慮する品質特性 □要件定義 □機能性 □移植性 □システム開発を調度 でいる。 □情報提供依頼書 □どのような流れでき □要件定義 □受入れ □コーディング □要件定義とシステム □ソフトウェア要件定義 □ソフトウェア詳細設 □デストのサイクルを □増体テスト □機能テスト	口体制 が析して、何を定義す生にどのようなものか口業務要件定義口信頼性をする(システム化を対象するか口システム設計口運用ロソースコードム設計の流れを確認し、テストの利益に対象するかけでで理図	ロリスク分析 るかを理解している。 あるかを理解している 、あるかを理解している 、の機能要件定義 ロ使用性 発注するシステムベー は実書 を理解している。 ロプログラミング ロ保守 ロコードレビュー 、それぞれの役割を・ ロシステム方式設計 ロソフトウェア方式設計 ロ共同レビュー 類と役割を理解して ロトップダウンテスト ロ質荷テスト ロデバッグ	□費用対効果 また、ソフトウェア る。 □非機能要件定義 □効率性 レダ企業を決める) 基 □見積書 □テスト □ソフトウェアライフサイク 理解している。 □ボトムアップテスト □リグレッションテスト □ホワイトボックステスト	の品質を高めるため 口品質特性 口保守性 本的な流れを理解し ロ導入 フル ロシステムテスト ロペネトレーションテスト

Point 番号				理解度チェック		
	□ソフトウェアの	開発手法にどの	ようなもの	があるかを理解し	ている。	
Point 40	□構造化手法]オブジェクト指向		
	ロデータ中心アプロ	コーチ]プロセス中心アプロー	Ŧ	
		· · ·			<u>.</u> あるかを理解している	<u> </u>
Point 41	ロウォータフォール			コスパイラルモデル	a) an example (\mathcal{S}_0
	ロプロトタイピングラ			127 (1)// L) // 1RAD		
		-			.H'	
	ロアジャイルソフト]リバースエンジニアリン	<i>'')</i>	
	□能力成熟度モデ	が統合	L]共通フレーム		
	□SLCP-JCF					
Point 42					ジェクト構成を覚えて	ている。
1 01111 72	ロプロジェクト	ロプロジェクト	マネージャ ロ]プロジェクトメンバ	ロステークホルダ	
Point 43	□プロジェクトマン	ネジメントとは	何か、どの	ようなプロセスが	あるかを理解している	5。また、プロジェク
Point 43	トマネジメントの	の代表的な手法	を覚えてい	る。		
	ロプロジェクトマネ	ジメント]PMBOK		□WBS
	□アローダイアグラ	ラムやガントチ	ャートから	プロジェクトの作	業工程を読み取れる。	
Point 44	ロアローダイアグラ	ム ロクリティカルノ	パス ロ]マイルストーン	ロガントチャート	
	□IT サービスマネ					
Point 45	ロロ サービスマネシ	· · · · ·		1111L	ロサービスレベル合意	ŧ
	ロサービスレベル管	· · ·	_]可用性管理		=
	□サービスサポー					
Point 46				-	口推改英田	口杰西笠田
	ロサービスサポート				□構成管理	□変更管理
	ロリリース管理					
Point 47	□ファシリティマス				方を理解している。	
TOTAL 17	ロファシリティマネシ]無停電電源装置		
	ロサージプロテクト	機能]セキュリティワイヤ		
Point 48	□内部統制の目的⁴	や実現のための	考え方を理	解し、内部統制を認	平価する方法にはどの	りようなものがあるか
Point 40	をわかっている。					
	□内部統制]職務分掌		ロモニタリング
	□日常的モニタリン	ノ グ]独立的評価		口内部統制報告制度
	ロリスクコントロール	レマトリクス]BCM		□всР
	□システム監査の	目的と流れを理	解している	0		
Point 49				-]システム監査基準	□監査証拠	□会計監査
	□業務監査				— ———	
				2 進数の違いを理	軽1 2 准数の演算や	を基数変換の計算がで
Point 50	きる。				17 O 1 1 CON 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	坐 频及1人20日开7
	□2 <u>進数</u>	口其数	_	7.	□符号付き2進数	口1の結数
	□2 延数		_	· 全奴友]关	口的与时已之起数	口「の情致
			१५ जिल	の古四はまときれ	File 7	
Point 51	□集合と論理演算の					-
	□集合	口論埋演算	L	〕論理和	□論理積	□否定
	□排他的論理和					
Point 52	□確率や統計の考決	え方を理解し、	基本的な計	算ができる。		
POIIII JZ	□確率	□統計		川列	□組合せ	□平均値
	ロメジアン	ロモード]レンジ		
T . F0	□情報量の単位を理	里解している。				
Point 53	ロビット	ロバイト	□кв	□мв	□GB	□тв
	□РВ	□ms	□ <i>μ</i> s	□ns	□ps	
Point 54	ロディジタル化]量子化		ロアナログ
	_, , , , , , ,	_	_			

Point 番号	理解度チェック				
	□文字は文字コード	で識別されることを理	上解し、代表的な文字	コードを覚えている。	
Point 55	口文字コード		□JIS	ロシフト JIS	□EUC
	□Unicode	_,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
		************************************	・エ田岳刀 ト・・・フ		
Point 56		造の基本的な考え方を		—	
		ロデータ型		ロファイル	□配列
		ロスタック		□木構造	□2 分木
Point 57		処理手順を表現できる	-		
1 On it 57	口流れ図	□順次構造	口選択構造	□繰返し構造	□合計
	□探索	□整列	□併合	□変数	
- · F0	□プログラミングの	役割を理解し、シスラ	「ム開発に用いられる	代表的なプログラム言	語を覚えている。
Point 58	ロプログラム言語	□C 言語	□Java	□COBOL	口言語プロセッサ
	ロコンパイラ	ロインタプリタ	ロスクリプト言語		
		ップ言語の種類とその			
Point 59		□HTML		XML	□SGML
	ロスタイルシート		LITTIMES	□ XIVIL	Поділі
			、 フ		
Point 60		類と特徴を理解してい	-		
	ロスーパコンピュータ				ロパーソナルコンピュータ
		タ			ロウェアラブル端末
Point 61		本機能と役割を理解し		で動作しているかをお	かっている。
1 On it O i	□演算	□制御	□記憶	口入力	口出力
D: (6)	□CPU の性能の考え	方を理解している。			
Point 62	□CPU	□クロック周波数	ロバス幅	□GPU	ロマルチコアプロセッサ
T /)	□メモリの種類と特	徴を理解している。			
Point 63	ロメモリ		□RAM		□ROM
	□キャッシュメモリ	の役割としくみを理解	解している。		
Point 64	ロキャッシュメモリ		□記憶階層		
	□記録媒体の種類や	特徴を理解している。			
Point 65		口磁気ディスク		口断片化	□最適化
	口光ディスク	□CD-ROM	□CD-R	□CD-RW	□DVD-ROM
	□DVD-R	□DVD-RAM	□Blu−ray Disc	ロフラッシュメモリ	□USB メモリ
			⊔biu-ray bisc	ロノノソノユメしり	□03B
	ロSD メモリカード				
Point 66		特徴を理解している。		01	
1 01110 00	ロキーボード		ロタブレット	□タッチパネル	ロイメージスキャナ
	ロバーコードリーダ				
Point 67	□出力装置の種類と	特徴を理解している。			
Politi 07	ロディスプレイ	□CRT ディスプレイ	□液晶ディスプレイ	□有機 EL ディスプレイ	
	ロプロジェクタ	ロプリンタ	ロレーザプリンタ	ロインクジェットプリンタ	
	ロドットインパクトプリ	ルタ	□3D プリンタ		
	□入出力インタフェ	ースの種類と特徴を理	上解している。		
Point 68	口入出カインタフェー		ロシリアルインタフェース		□USB
	□IEEE1394		ロパラレルインタフェース		□IEEE1284
			ロワイヤレスインタフェー		□IrDA
			ロアナログ RGB		
	□Bluetooth		LIFF HY RUB		□DVI-D
	□HDMI				

Point 番号			理解度チェック		
2	□システムには管理	形態・構成方法・利用	形態から見たさまざ	まなタイプがあること	を知り、それぞれの
Point 69	特徴を理解してい	る。			
	口集中処理		口分散処理		口水平分散
	口垂直分散		口並列処理		口逐次処理
	ロデュアルシステム		ロデュプレックスシステム	ل ا	ロシンクライアント
	ロクラスタシステム		ロリアルタイム処理		ロバッチ処理
	□対話型処理		ロレプリケーション		
		バシステムの特徴を理			
Point 70		システム	- · ·		
		信頼性、経済性を評価		<i>て</i> いる	
Point 71	ロレスポンスタイム		ロターンアラウンドタイ <i>』</i>		ロスループット
	ロベンチマークテスト		ロフォールトトレラント	4	ロフェールソフト
	ロフェールセーフ		ロフールプルーフ		□тсо
	口初期コスト	1.2 mm/m)>>	□運用□スト		
Point 72	□RAID の種類と特徴				
	□RAID0	□RAID1	□RAID5	□NAS	i. we
Point 73				2し、稼働率を計算でき	
10111170	□稼働率		□平均修復時間		ロ並列システム
Point 74		足し、どのような機能	があるかをわかってV	いる。また、代表的な	OS の種類と特徴を理
I OII II 7	解している。				
	□os		ロアプリケーションソフト	ウェア	ロユーザ管理
	ロファイル管理		口入出力管理		□資源管理
	ロメモリ管理		□タスク管理		ロプラグアンドプレイ
	口仮想メモリ		□タスク		□MS-DOS
	□Windows		□MacOS		□UNIX
	□Linux		□CUI		□GUI
D 1 . 7F	□ファイル管理の考	え方を理解し、ファイ	イルを指定できる。		
Point 75	ロディレクトリ	ロルートディレクトリ	ロサブディレクトリ	ロカレントディレクトリ	ロパス
	□絶対パス	口相対パス	ロファイル共有		
7/	□バックアップの取	得方法や留意点を理解	犀している。		
Point 76	ロバックアップ	ロフルバックアップ	口差分バックアップ	口増分バックアップ	□世代管理
	ロアーカイブ				
	□www ブラウザを使	ってインターネットカ	ら必要な情報を検索	し、入手できる。	
Point 77	□URL	□検索サイト	□www	□Web サイト	□Web コンテンツ
	□Web システム	ロクローラ	□RSS	ロクッキー	
	□メールソフトを使	って、情報を適切にや	やり取りできる。		
Point 78	□同報メール		□cc	□BCC	ロメールアドレス
	ロメールボックス				_,
		し、どのようなソフト	・ウェアがあろかをわ	かっている。	
Point 79	□oss	0, 0,00,000	7 = 1 10 W W END	77 5 6 6 50	
		フェースを宝珥する(III の要表にどのよう	なものがあるかをわれ	かっている
Point 80	ロヒューマンインタフ		ロウィンドウ	12 0 0 2 12 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	ファック (マッシ。 □メニューバー
	ロテキストボックス		ロラジオボタン		ロプルダウンメニュー
	ロチェックボックス		ロコマンドボタン		ロサムオックス
	ロアイコン		ロポップアップメニュー		ロサムネイル
	ロヘルプ機能	ナフ防の M立 トナマック	カーデルフ		
Point 81		する際の留意点を理解	件している。		
•	□画面設計	□帳票設計			

Point 番号	理解度チェック				
D-:(02	□Web デザインにおい	いて使いやすさ (ユー	ザビリティ)の観点な	が必要であることを理	解している。
Point 82	ロユーザビリティ		□Web デザイン		
	ロユニバーサルデザイ	ン	□Web アクセシビリティ		□UX
D : . 03	□マルチメディアの	意味を理解し、関連す	る用語を覚えている。)	
Point 83	ロマルチメディア		ロストリーミング		ロバーチャルリアリティ
	ロコンピュータグラフィ	ックス	口拡張現実		
	ロコンピュータシミュレ	ーション	ロシミュレータ		□CPRM
04	□文書・音声・静止	画像・動画像の代表的	なファイル形式を覚	え、特徴を理解してレ	いる。
Point 84	ロテキスト	□HTML	□PDF	□МР3	□MIDI
	□JPEG	□GIF	□PNG	□MPEG	□拡張子
05	□ファイル容量が大き	きいデータは、メディ	アの種類に応じた圧約	縮・伸張方法が利用さ	れていることを理解
Point 85	している。				
	□圧縮	□伸張	□可逆圧縮	□非可逆圧縮	□LZH
	□ZIP	□圧縮率			
0.1	□色を表現するカラー	ーモデルの違いと色を	・構成する3つの要素:	が何かを理解している	D _o
Point 86	□RGB	口光の3原色	□CMYK	口色の3原色	□色相
	□明度	□彩度			
07	□グラフィックスソ:	フトウェアにどのよう	な種類があるかを理	解し、それぞれの違い	·をわかっている。 ま
Point 87	た、画像の品質を治	則る指標にどのような	されのがあるかを理解	している。	_
			ロドロー系グラフィックス	-	□画素
	□解像度		□階調		···
	□データベースの目的	ー りを理解し、データへ	ベースモデルにどのよ	うな種類があるかをね	 oかっている。また、
Point 88		ンステムの特徴を理解			
	ロデータベース		ロデータベースモデル		
	ロリレーショナルデータ	パース	ロネットワーク型データ/	ベース	
	ロツリー型データベー	7	ロデータベース管理シス	ミテム	
	□排他制御		ロリカバリ		
	□データベースを設	計する際の考え方を理	 関解している。		
Point 89	ロテーブル	ロフィールド	ロレコード	ロコード	ロインデックス
	□正規化	□主キー	□外部キー		
	□SQL の代表的なデー	-タ操作方法にどのよ	うなものがあるかをす	里解している。	
Point 90	□SQL	口挿入	□削除	口更新	□射影
	口選択	口結合			
	□LAN と WAN の意味を		囲が違うことを理解し	 _ている。	
Point 91	ロネットワーク		□LAN	- 1 · 00	□WAN
	□LAN の代表的な規格にどのようなものがあるかを理解している。				
Point 92	□10BASE-T	□100BASE-TX		□FDDI	□IEEE802.11b
	ロイーサネット	□ESSID	Wi−Fi	ロデータ伝送速度	
	□LAN を構成するそれ				
Point 93	□LAN ボード		□LAN ケーブル		ロツイストペアケーブル
	ロ光ファイバケーブル		□中継装置		ロリピータ
	ロスイッチ		ロハブ		ロルータ
	ロゲートウェイ		ロモデム		ロル ノ □ADSL モデム
	ロターミナルアダプタ		□MAC アドレス		ロポート
	ロデフォルトゲートウュ	·1	□PoE		<u> </u>
	- 1 1 1 1 1 J	- •			

Point 番号	理解度チェック						
D 1 . 04	□プロトコルの必要	性とインターネッ	ットで利用されている代	代表的なプロトコルの	役割を理解している。ま		
Point 94	た、インターネッ	ノトに接続されてい	\るコンピュータは、I	P アドレスとドメイ	ン名で管理されているこ		
	とを理解している。						
	ロプロトコル	☐TCP/IP	□HTTP	□SSL	□HTTPS		
	□SMTP	□POP	□MIME	□FTP	□NTP		
	□DHCP	□WPA2	□IP アドレス	□IPv4	□IPv6		
	ロドメイン名	□DNS					
D : (CE	□インターネットへ	の接続に利用する	る通信回線にどのような	よものがあるかを理解	足している。		
Point 95	□ISDN 回線	□ADSL 回線	口光回線	□携帯電話回線	□回線事業者		
	□ISP	□LTE	□IP 電話	口光通信	□パケット通信		
	ロテザリング	□SIM カード	□MVNO				
D 1 . 0/	□ネットワーク社会	ぐで安全に活動する	るために、情報セキュリ	ティの基本的な目的	と情報資産の種類を理解		
Point 96	している。						
	口情報セキュリティ		□情報資産		□顧客情報		
	□営業情報		□知的財産関連情	青報	□人事情報		
	□有形資産		□無形資産				
D 1 . 07	□情報資産を脅かす	ものに、人的・技	を がいまた を おおり を おおり を おおり を おおり を おおり を おおり と まれり と まれり と まれり と まれり と まれり と まれり と まれり と まれり と	ぶあることを知り、ど	のような種類があるかを		
Point 97	理解している。						
	□人的脅威		□漏えい		□紛失		
	□破損		□盗み見		□なりすまし		
	ロワンクリック詐欺		□内部不正		□誤操作		
	□標的型攻撃		□サイバー攻撃		□技術的脅威		
	ロコンピュータウイル	ス	ロガンブラー		ロスパイウェア		
	ロランサムウェア		ロワーム		□トロイの木馬		
	□フィッシング詐欺		ロキーロガー		ロパスワードクラック		
	□辞書攻撃		口総当たり攻撃		ロパスワードリスト攻撃		
	□クロスサイトスクリ	プティング	□SQL インジェクシ	ョン	□DoS 攻撃		
	□ポートスキャン		ロセキュリティホール		□ゼロデイ攻撃		
	□水飲み場攻撃		□物理的脅威		□災害		
	□破壊行為		口妨害行為		□ソーシャルエンジニアリング		
	ロクラッキング		ロマルウェア		□вот		
	ロバックドア		ロファイル交換ソフ	トウェア			
Point 98				•	あることをわかっている。		
1 OH II 70	また、情報セキュ	ュリティポリシのネ	考え方を理解している。				
	ロリスクマネジメント		口情報セキュリティ	マネジメント			
	口情報セキュリティア	ポリシ	ロリスクアセスメント	•			
	口情報セキュリティ	マネジメントシステム	口情報セキュリティダ	対策ガイドライン			
	ロプライバシーマーク	り制度					

Point 番号	理解度チェック					
D CO	□情報セキュリティ対策に、人的・技術的	物理的なセキュリティ対策があ	ることを知り、具体的にどの			
Point 99	ようなことを実施すべきかを理解している。					
	□人的セキュリティ対策	□情報セキュリティポリシ	ロアクセス権			
	□技術的セキュリティ対策	□暗 号 化	□ディジタル署名			
	□電子透かし	□利用者認証	ロコールバック			
	□ウイルス対策ソフトウェア	口ウイルス定義ファイル	ロプロキシ			
	□ファイアウォール	□DMZ	□検疫ネットワーク			
	□コンテンツフィルタ	□物理的セキュリティ対策	□生体認証			
	□監視カメラ	□施錠管理	□入退室管理			
	□シングルサインオン	ロワンタイムパスワード	□VPN			
	ロディジタルフォレンジックス					
D · . 100	□2 つの代表的な暗号化方式があることを確認し、それぞれのしくみや特徴を理解している。					
Point 100	□暗号化	□復号	□鍵			
	□共通鍵暗号方式	□公開鍵暗号方式	□PKI			
. r∨⊐ ()	□過去に出題された計算問題のうち、出題される可能性の高い計算式について理解している。					
付録 2	口損益分岐点売上高	□経常利益	□在庫数			
	□採算性(費用対効果)	□作業日数	□作業工数			
	□2 進数	□パスワード組合せ	□システム稼働率			
	□複合システム稼働率					